

あがやま

令和4年12月23日(金) 草津市立渋川小学校 学校だより 第6号

渋川 歩みつづける 2022
 わたしのいっば! みんなのいっば!
みんなていっば!

わたしのいっば
みんなのいっば
みんなていっば

2学期の終わりを迎えて = 考え、議論する子どもたち =

今年度も2/3が終わり、残りの方が少なくなってきました。そして、それに反比例して、子どもたちの成長が増えてきました。その様子がとても伝わってくる大きな年表のような掲示物が学校の中で一番良い場所にあります。これを作製しているのは、児童会の子どもたちです。



上ったり下ったりは、1年間の道程を表しているのでしょうか。或いは、調子の良い時もうまくいかない時もある、ということなのでしょう。この8か月間、子どもたちは児童会や各委員会がよく動きました。そして、児童会の出す方針に基づいて、各クラスもよく動いていま



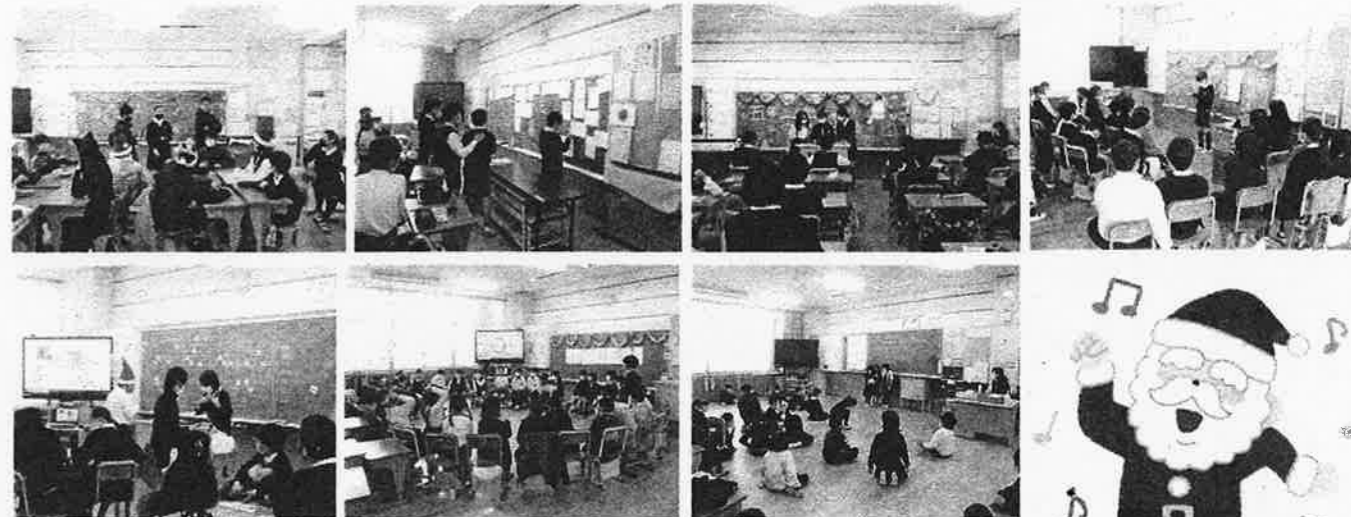
す。その取り組みは一方向でなく常に往還しています。

- 6・7月 → ひとりひとりを大切に、やさしさあふれる渋川小学校にしよう
- 9・10月 → みんなが味方の輪をつくり、いじめゼロの楽しい渋川小学校にしよう
- 11月 → 思いをこめてあいさつしあえる渋川小学校にしよう

と、この8か月間で3つの全校の「いっば」があり、それをもとに各クラスの「いっば」を決めて取り組み、その振り返りをもとに次の全校の「いっば」が検討されています。児童会の話合いを見に行きましたが、あるクラスから問題提起があり、その解決策をたいへん活発に議論していました。いわゆるPDCAサイクルがきちんと機能していると言える状況に舌を巻く思いでした。あと3か月、どこまで成長し、今年をどうまとめ、来年度にどうバトンタッチするのか、とても楽しみです。



子どもたちの自治の力

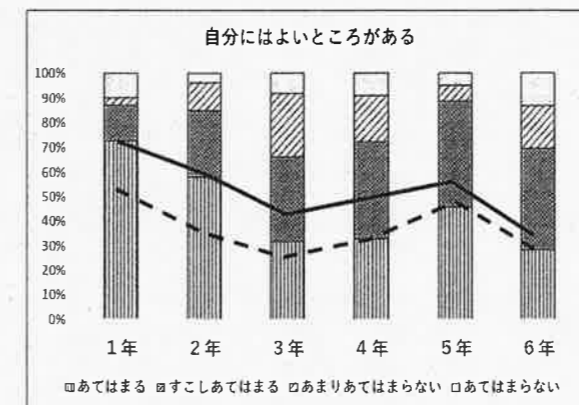


上の写真は、学期末の子どもたちの姿です。多くのクラスでクリスマス会やお楽しみ会が開かれていました。考えてきたクイズ、椅子取りゲーム、大喜利、イラスト大会、おばけ屋敷・・・様々なプログラムが考えられています。そして、どのクラスでも、先生が仕切っている様子がありません。「手を繋いで走るのダメです。」と椅子取りゲームのルールを説明したり、「次は〇〇をします。チーム分けは・・・です。」と進行したり、「楽しんでもらえましたか?」と挨拶したり、全て子どもが考えて進められています。遊びを通して、自分たちの生活を自分たちで良くする力が、低学年のうちから少しずつ育まれていることを感じます。失敗を恐れず、自分たちの力で何かを生み出すことにどんどん挑戦して欲しいと思っています。

自尊感情と関係が深いもの

下のグラフは、今年度子どもたちにとってアンケートのうち「自分には良いところがある」の結果です。ざっくり捉えると学年が上がるほど下がっていく傾向になりました。いったん3年生で落ち込み、5年生に向けて上がり、6年生が最も低くなるという上下が、発達段階による普遍的な傾向なのかどうかについては、すぐには判断できないところですが、物事を客観的にとらえたり、多角的に見たり、知識量も増えて自分に求める理想が高くなる高学年ほど自分を過小評価しがちなのだろうという予測は、誰しも思うところでしょう。

そしてもう一つ、——線と---線で示したグラフとの関連です。——線が「家の人からほめられる」、---線が「先生からほめられる」です。自尊感情の棒グラフの形と重なっています。



人から認められるという経験が自分で自分を認められることにつながるということが分かります。

人はついつい、マイナスの意味で気になることを相手に伝えるほうが、プラスに感じたことを伝えるよりも多いものです。もちろんいけないことを毅然と指導することも必要ですが、相手の良い行いや努力をほめる(ほめる、というは上目線な感じですから、ほめるというよりも心から一緒に喜ぶ、ということでしょうか...)ことは自尊感情や自信につながり、ひいては子どもの成長につながるのだと思います。